

# 京まち工房



AUTUMN  
情報交流誌

no.

# 16

(財)京都市景観・まちづくりセンター ニュースレター

パートナーシップで進めるまちづくり



## 次代に引き継ぐ京町家 ～「京町家なんでも相談」をはじめました～

### 京町家なんでも相談

#### 京町家一般相談

センターでは、京町家に関する相談に随時応じています。  
土日祝、年末年始を除く毎日 10:00～12:00、13:00～17:00

#### 京町家専門相談

居住者・所有者の方からの、京町家に関する専門的な相談に、  
京町家専門相談員(不動産事業者、大工・工務店、建築士)が  
面談による相談に応じます。

毎月第2木曜日  
13:30～16:30  
事前予約制・相談料無料  
於：センター



### 京町家再生セミナー

居住者・所有者を対象として、京町家の活用・改修の可能性や有効性などについて、専門家や経験者を講師に迎え、楽しく、わかりやすい連続セミナーを開催します。

偶数月第2木曜 13:30～15:00

定員30名(当日先着順)・受講料無料

第1回10/11「京町家の賃貸借を実例・経験から学ぶ」

第2回12/13「定期借家制度と京町家の活用」

第3回 2/14「大工さんに学ぶ改修の考え方」

第1回、第2回は、於：センター

第3回は、於：よしやまの町家(上京区葎屋町通下立売下丸屋町)



京都の魅力の一つである京町家では、多様な人々が入れ替わりながら、暮らしや商いが営まれ、豊かな都市居住文化が育まれてきました。

しかし、これまで京町家の維持・継承を支えてきた社会的なしくみは失われ、今まさに、京町家の居住者、所有者の方々の悩みや不安を受け止める新たなしくみづくりが緊急の課題となっています。

そこで、センターでは、京町家の維持・継承に伴う様々な悩みや不安の解消に向け、「京町家一般相談」をさらに充実するとともに、京町家にお住まいの方や京町家をお持ちの方を対象とした

「京町家専門相談」を新たに始め、「京町家なんでも相談」として9月から実施しています。

去る9月1日(土)には、「景観・まちづくりシンポジウム～京町家を支える環境づくりに向けて～」を開催し、京町家を現代に引き継ぐ環境づくり、京町家の保全・再生による魅力あるまちづくりの可能性について、市民の皆さんと考えました。

これからも、センターでは、京町家の保全・再生に向け、積極的に取り組んでいきます

輪は広がっていきました。

平成9年からは、「別所井戸端展」として地域を挙げての取組となり、千人以上の人が訪れています。

訪れる人の喜ぶ顔を思い描きながら展示作品や農作物のアイデアを考えるひとときや、作品づくりに打ち込んでいる時間は生活の一部として、住民の暮らしに潤いを与えるとともに、生き甲斐にもつながっているようです。

### 別所学校存続委員会

移り住んで来た子供たちが、大きくなり学校を卒業するにつれ、地域の生徒児童数の減少が始まりました。

再び訪れた危機ですが、これまでで得た経験が生かされ、地域全体で

取組む組織としての別所学校存続委員会の設立(平成9年)へとつながることとなりました。

移り住んで来た人たちも委員会の力強い担い手として活躍しています。委員会による家の斡旋に対して、問合せが4年間で40件ほどあり、そのうち6家族が移り住み、2家族が準備中です。

取組への理解も広がり、土地や借家の提供の申し出が増えつつあり、永住希望用の土地は一定の目処がつかれました。しかし、圧倒的に希望の多い借家が確保できず、目標としている数には至っていません。離れの提供を申し出る例もありますが、改修費用とは別途に、水の確保のための井戸や浄化槽設置が必要となるため(公共下水道が未整備であること

が原因)、その大きな費用負担が壁となるケースもあり、地域固有の悩みともなっています。

委員会では地域の活力の維持、向上のため、新しく移り住む人を継続的に受け入れることのできる借家の確保や、永住希望の方への呼び掛け等の取組を今後も幅広く行っていく予定です。

新しく移り住んで来た人や古くからいる人が、共に力を合わせ、地域の将来を見据え、自らの責任と役割を自覚した取組を続けると共に、お互いの価値観を認め合い、地域の魅力の向上に楽しみながら自然体で取組む、そんな花脊別所地区のまちづくりが充実していくことが期待されます。



物部忠吾さん  
別所自治振興会  
会長

新しい別所が芽生えているように思います。今では、外からの人が地域の三分の一となりましたが、うまく溶け合っているように思います。

移り住んで来た人が二代続いていることが嬉しいですね。多くの方が突然に増えるのではなく、地域を理解する人に少しずつ入って来てほしいと思っています。



高橋康廣さん  
別所学校存続委員会  
事務局

年齢構成のアンバランスは学校だけではなく地域福祉の課題でもあります。

学校存続委員会への理解も広がり、借家提供の申し出が増えています。修繕や水廻り整備等の費用負担の問題等で、貸せないものもあり、数が足りない状況にあります。様々な方と協力して借家を確保し、移り住む人を増やしていきたいと思っています。



藤井克巳さん  
別所自治振興会  
副会長

この地域が好きで、地域のいいところを分かち合える、そんな人を受け入れたいと思ってきました。そんな人に来ていただいたことが、今の地域の魅力となっているように思います。

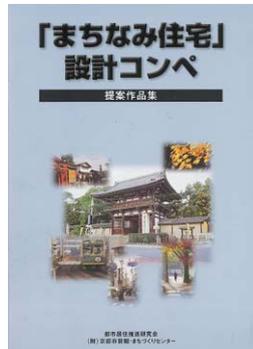
今後も、自分たちの身の丈にあった範囲で、外から人を受け入れ、いっしょに楽しいまちづくりを進めて行きたいと思っています。

## お知らせ

### 「まちなみ住宅」 設計コンペ提案作品集

..... 1,000円

これまでの建売住宅のあり方を見直し、地域住民、購入意向者、開発事業者と設計者のパートナーシップによる取組で進めた、「まちなみ住宅」設計コンペの提案作品集です。



### 町家型共同住宅設計ガイドブック (モデル参考事例集付き)

..... 1,500円

町家に育まれた「自然環境と調和した穏やかな生活空間」や「職・住・遊一体の都市居住」、「密度の高い洗練された和風デザイン」を生かしつつ、新たな工夫を加えた共同住宅のための設計ガイドブックです。(発行：京都市)



#### <入手方法>

当センターで販売しています。

郵送希望の場合は、現金書留で以下の3点を当センターまで送付してください。

- 代金
- 郵便切手(390円分/冊)
- あて先を明記したもの

#### 送付先

(財)京都市景観・まちづくりセンター

〒604-0846 京都市中京区両替町通押小路下る金吹町452  
元京都市立龍池小学校内

この他にも多数、報告集や記録集を発行しています。詳しくは、当センターのホームページをご覧ください。

URL: <http://web.kyoto-inet.or.jp/org/kyoto-ws/seikasyu.htm>

## あなたのまちづくり拝見

# 左京区花脊別所地区のまちづくり

住民主体の取組を様々な観点から紹介するこのコーナー。今回は、児童生徒数の減少や高齢化をきっかけに、新しい住民に移り住むことを呼びかけ、古くから住む人と一緒に、地域の良いところを分かち合い、地域の新しい魅力づくりや、地域社会の課題解決に向けた取組等を行っている花脊別所地区を紹介します。



### 花脊別所地区

花脊別所地区は、左京区北部の鞍馬から標高約700mの花脊峠を超えた杉林に抱かれた山間に位置します。現在、約60世帯、約170人が暮らしています。

林業と木炭の産地として活況を呈した時期もありましたが、石炭から石油、ガス等への燃料の移り変わりとともに安価な輸入木材等の影響で、林業などの地域産業は衰退し、峠を越えて働きに出る人が多くなり、少しずつ人が減っていく状況が続いていました。

### 移り住む人への呼びかけ

地域には約120年前に設立され、地域社会のよりどころとなっている学校(別所小学校、花脊第一中学校の併設校)がありますが、今から約20年前、児童生徒数が減少し、一人もいない学年すら、生じていました。住民の多くは、その解決策として、外からの人を受け入れる以外に方法がないことを感じていました。しかし、先祖から引き継いだ土地を手放すことへの強い抵抗感や、「移り住んできた人と上手く付き合えなかったらどうしよう」という不安な思いが強く、誰もが一步を踏み出せない状況が続いていました。

そんな閉塞状態を切り開いたのは、今から約15年前、「地域の将来のためには自分が土地を提供する以外にない」との藤井克巳さん(現別所自治振興会副会長)の決断でした。移り住んで来る人とも一緒に、地域を良くしていきたいとの思いから「小学校に行く予定の子供がいること」と合わせて、「地

域のことが好きで、理解してくれる人」という条件で呼び掛けを行いました。

そんな呼び掛けに応えた人々を中心に、今では20世帯が移り住んでいます。

### 古くからの地域の祭りや行事をともに楽しむ

高橋医院の高橋院長は11年前に、地域住民となりました。地域医療という自らの夢を実現するための大病院からの転身でした。今では、別所学校存続委員会事務局を担うなど地域活動の核として活躍しています。

「地域に溶け込むきっかけは、PTA等の子供を通じての交流がありましたが、それにも増して、地域の祭りや行事などを、ともに楽しく作り上げる過程を通じての交流や信頼関係の構築が大きな役割を果たしました」と高橋さんは振り返ります。

住んでいる期間の差だけから、分け隔てをするのではなく、地域の一員として気軽に参加を呼びかける。そんな姿勢が、この地域に古くからある祭や行事への敷居を低くし、新しい人を担い手として引き入れていきました。

### 地域の新しい魅力としての「別所井戸端展」

今では秋の一大行事となっている「別所井戸端展」2日間、あちこちの軒



地域の女性などがモデルを務めるファッションショー

先や土間、居間等に、思い思いの作品が並びます。手づくりのわら細工や、漬物、様々な農作物など、心のこもった作品が、訪問者を迎えます。ファッションショーを行う家もあります。



つくだにや陶器、山菜おこわ、特産品等が並びます

この取組は、新しく移り住んだ人から広がりました。

和服のリフォーム業を営んでいる中平さんは「新しい地で、元気にやっている姿を知人や友人に見てもらいたい。」との思いで作品展示会を始めました。訪れた人と心ゆくまで語り合い、豊かな自然を味わっている楽しそうな様子は隣の人につながりました。趣味で作った焼き物や編み物を並べたところ、予想以上の人に喜ばれました。今度は、近くの人が山菜弁当や、ぜんざいを出したところ、飛ぶように売れました。「そんなに喜んでもらえるんやったら私もやろう」。古くからの地域の人も、こだわりなく、その楽しさを受け入れ、展示会の

お知恵拝借～

# 宝塚市「中山台コミュニティ連合会」のまちづくり

- 「やりたい、やってみたい」からまちづくりへ -

今回は、兵庫県宝塚市を東西に横断する長尾連山の南面中腹に位置し、豊かな緑と自然に囲まれた中山台（中山台、中山桜台、中山五月台）でまちづくり活動をしている「中山台コミュニティ連合会」からお知恵を拝借します。



送迎サービスを行う「カーボランティア」の活動の様子

## 山の手のニュータウン「中山台」

中山台は昭和45年から50年頃にかけて開発されたニュータウンで、現在では約5,000世帯、約16,000人の住民が暮らしています。地域内には、2つの幼稚園、2つの小学校、1つの中学校、1つの高等学校が存在しています。

## 「中山台コミュニティ連合会」の設立

そもそも中山台でコミュニティ活動が始まったのは、「中山台コミュニティ協議会」の設立からです。この協議会は、平成4年、「地域の中で何かやりたい、何かできないか」という多くの人の思いが集まったこと、また、同時期に地域活動の場として「中山台コミュニティセンター」が開設されたことを契機に、設立することになりました。その後、7年間の活動を経て、平成11年、より多くの住民参加のもとに地域の課題に取り組み、まちづくり活動の活性化と向上を目指そうと、それまで別々に活動していた「中山台自治会協議会（地域内にある11の自治会で組織）」と「中山台コミュニティ協議会」とが協力し、一つの組織「中山台コミュニティ連合会」を設立しました。

宝塚市では、平成3年からコミュニティ政策として、自治会の充実とその自治会を中核とする小学校区単位のまちづくり協議会の形成を呼び掛けていましたが、中山台においては、行政から呼び掛けられたからというのではなく、住民自らの問題意識や素直に「やりたい」という思いが同連合会を設立させることになりました。

## 多彩な活動を約200名の委員で！

中山台コミュニティ連合会の組織は、右図のようになっています。月に

一度の運営委員会と2ヶ月に一度の常任評議委員会で、自治会や各部会との横断的な連携を図り、また、行政とも連携しながら、様々な活動を行っており、その活動人数は合わせて約200名にのぼります。

いくつかの具体的な取組を紹介します。

福祉部会では、会食サービス、配食サービス、リハビリ教室、体の不自由な方や産前産後の方の家事援助、送迎サービス、外出の介助など、様々な活動を行っています。家事援助に関してみると、平成12年度の活動日は332日、延べ603名の方がボランティアとして活動しています。また、その他の活動も年間に延べ数百名の方が利用しています。



ベートーベンの「第九」の練習の様子

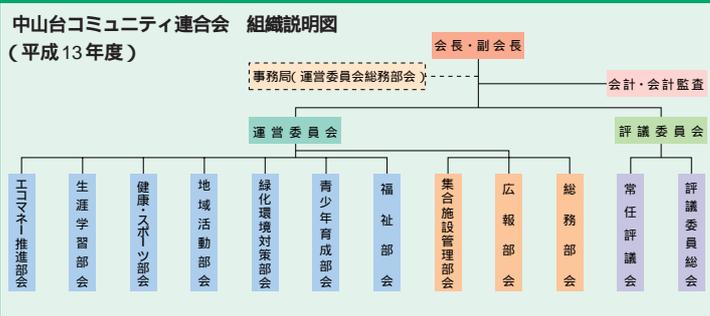
地域活動部会では、地域住民の交流を目的に、様々なイベントを行っています。地域住民の有志が集まり、ベートーベンの「第九」を合唱する「音楽ふれあいフェスタ」を毎年開催したり、地域で活動するグループの活動発表会を開催しています。

昨年度から宝塚市のエコマネー実験のモデル地区として指定されたこと

からエコマネー推進部会をつくり、実験を重ねています。その内容は、地域の人に自分の特技や自分ができる活動など

を登録してもらい、それを皆さんに見てもらふことにより、登録者と、一緒に活動してみたい人、その活動のお世話になりたい人とを結びつける活動を行うというものです。「これまで地域活動に関わりがないため、いきなりは参加しにくいと思っている人も、気軽に自分の得意分野を生かすことができる」との声もあり、新たな参加者が得られる方法の一つとして期待されます。

「これらの取組は、決して義務感でやっているではありません。また、義務感ではこんなに長続きしなかったでしょう。とにかくやりたくて、楽しくて、仕方ないんです。だから、せっかく楽しく行っていることが嫌にならないように、しんどいと思ったら無理せず休もうねと委員同士では言っています」と福祉部会長の藤田喬子さん。少子高齢化が進む一方で、最近ではこの地域で育った子供たちが、所帯を持って地域に帰ってくることも多くなっています。このような活動の継続がこの地域の住みやすさを感じさせる一因になっていることが分かります。比較的似たような世帯が同時期に住み始めたというニュータウンの特徴を生かし、気負うことなく、誰に言われるでもなく、自分の気持ちに素直に活動し続けているこの中山台に、改めてまちづくりの原点を教わったような気がします。



## 京町家の保全・再生の事例

# ～京町家が醸し出すリラクゼーション空間～

ヘアスタジオ「Fino」 北区紫野

堀川北大路の北方の紫野の住宅街に、一際目立つ本二階の町家がある。築80年以上経つこの町家で、平成13年4月にヘアスタジオ「Fino」がオープンした。

暖簾をくぐり中に入ると、表の間は陶板が敷き詰められた土間で、こだわりの輸入家具が配された待合室となっている。中の間は畳をフローリングに替え、炉が設けられている。着付け室として使う傍ら、冬は火を入れ、暖をとる。9メートルの高さの吹き抜けがある広い奥の空間は、元は織工場だったという。この雄大な空間を活かし、ヘアスタジオとしている。



表の待合室

「もともと京町家では、職住一致でお商売をされています。京町家で店を構えることは、何も新しいことではないと思っています。京町家での開業にこだわり続けた阪本氏は、やっとのことで今の京町家に巡り会った。11年前、京町家での開業を希望したが、当時は思うような物件が見つからず、コンクリート造りの一軒家に店を構えた。その後



奥は高い吹き抜けの天井となっている。中の間には炉のある着付け室がある

も京町家での営業にこだわり続け、物件を探す、なかなか自分の想いにかなう物件が見つからない。不動産事業者や知り合いに、京町家を探していることを伝え続けていた。偶然、知人のインテリアコーディネーターが、賃貸予定の京町家のイメージプランの提案を、不動産事業者からの依頼で行うことになった。それを聞きつけた阪本氏は、早速その京町家を見に行く。10年間空き家だったその家は、ど

す黒く、そのままではとても使えそうにはない状態だった。しかし、阪本氏はその空間を見た瞬間、店舗のイメージが閃いたという。その場で借りることを即決し、不動産事業者から賃貸借の仲介を受けた。

入居にあたり、「雨漏りや構造部分の改修については家主が負担し、その他については、事前に家主に改修計画の提出を行いながら、自由に改装する」ということを取り決めて借り受けた。オープンに向けて、インテリアコーディネーターが改修計画を立て、知人の紹介の工務店に依頼し、改修を行った。柱や梁は洗いをかけ、壁も塗り直すなど、構造部分はそのままして、全面的に改修している。1階には床暖房を採用し、冬の寒さに備えた。表に面した2階の窓は、新たに木枠のサッシを取り付けた。個性を出しつつ、他との調和を考える。逐一、インテリアコーディネーターにイメージを伝えながら、改修を進めていった。オープン後も、気がついた部分を随時改修している。春・夏・秋・冬、それぞれの季節を経る中で、より良い空間づくりを心がけるつもりだという。

「ここでは、人が行うサービスだけでは得られない満足感を、建物、空間が与えています。リラックス感が、空気からにじみ出ているんです。自然素材でできた京町家の柔かく自然を感じる空間が、来客者へサービスを提供するのに相応しいと考えた。また、京都という地域性を活かして営業していくことを考え、京都の伝統的な建築物である京町家を選んだという。当初から確信があったとおり、以前に増してお客様がリラックスしていることを実感している。建物がきれいになったことで、家主にも喜ばれている。

前の店舗から大きな石造りの看板を運び、手を入れ、生まれ変わった店の玄関に置いた。新しい店で、ひとつひとつ細部にこだわりを持ち、京町家と人が一体となったサービスを提供する。息を吹き返した京町家が、リラクゼーション空間を創り出した。



# 「まちなみ住宅」設計コンペ シンポジウムの開催

～地域と共生するまちなみづくり・まちづくりの一層の推進に向けて～

センターでは、都市居住推進研究会と共催で、21世紀における新たな民間開発による市街地形成のモデルとして「まちなみ住宅」設計コンペを実施しました(第15号参照)。この度、本コンペの取組の経過、成果、意義を発信し、今後、様々な地域において、本取組をモデルとしてパートナーシップによるまちづくりが広がることを展望して、シンポジウムを開催しました。シンポジウムでは、まちづくりの様々な主体である本コンペの関係者をコメンテーターとして招いて、意見交換を行いました。

## 設計コンペのプロセスを振り返る

本コンペの関係者がコメンテーターとして参加した第2部では、広原運営委員会副委員長をコーディネーターに、まず地域まちづくりと連携した本取組に、どのような思いで参加したのか、またそれぞれの主体(地域審査員、購入意向審査員、開発事業者審査員、設計提案者)に対して、相互の理解は進んだのか、ということについてコメンテーターの発言を受けて意見交換が展開されました。

審査員からは「購入意向者にとっては、予め地域の様子や地域に住んでいる人と顔見知りになれることは非常に嬉しい」「地域住民にとって、新しいまちなみ形成に参加できるのはありがたい」という感想が出され、設計提案者からは「盛りだくさんの取組で改善すべき点も多いが、プロセス自身は非常に良かった。このような取組を通して、設計者ももっと勉強すべきだ」という感想が出され

ました。その一方で、地域審査員から「設計提案者という専門家の意見をもっと聞きたかった」という意見も出されました。

## どのような提案が評価されたのか

次に3者の審査員から、それぞれの主体がどのような評価基準で提案を評価し、審査したのかについての発言があり、これに対して設計提案者はどのような思いを込めて提案をしたのかの発言がありました。今回提案された作品には、路地等の「コミュニティ空間」を提案した作品が多かったのですが、これは維持管理の面や不動産の資産評価について多くの課題があることから、今回はいずれの審査員からも高い評価は受けませんでした。

運営委員からは「今回の取組は、事業者と購入者と地域住民の関係を、審査という場を通じてリアリティを持って考える機会でした。さらに、これま



シンポジウムでは、審査員、設計提案者をパネラーに迎えました



で建売住宅とはあまり縁の無かった設計者が参画する方法を模索する取組でもありました。そしてこの関係を理解している設計提案者が、各審査員の立場に配慮したプレゼンテーションを行い、評価されました」との意見が出されました。

フロアからは、本対象地の事業者から「最初は設計提案者がどんな提案をするのかが怖かったです。しかし出された提案をじっくり見てみると、今後活用したいアイデアが多数ありました」等、本取組を通じて考えが変わったこと、そして今後の事業展開につなげていきたいという思いが出されました。

## 今後の京都のまちづくりに向けて

今回の取組を今後の京都のまちづくりに活かしていくために、設計提案者からは「都心部にある低未利用地の活用とまちの活性化を兼ねて行ってはどうか」「事業企画も含めた広い視点からのコンペとしたらどうか」等のアイデアが出され、審査員からは「もっとPRをして、小規模でもこのような取組を重ねていけば、結果として京都全体が良くなるだろう」「このような取組が広がるためには、金融機関の参加が必要では」というアイデアが出されました。

シンポジウム及び「まちなみ住宅」設計コンペの詳細は、センターのホームページをご覧ください。シンポジウムの摘録も掲載しております。

<http://web.kyoto-inet.or.jp/org/kyoto-ws/machinami/sympo.htm>

『「まちなみ住宅」設計コンペ提案作品集』を、販売しています。(詳細は、3ページを参照)

## シンポジウム「まちなみ住宅」設計コンペの挑戦！ ～地域共生のまちなみづくり・まちづくりの可能性～

【第1部】「まちなみ住宅」設計コンペの経過や成果、意義についての報告

【第2部】「まちなみ住宅」設計コンペの取組から、今後のパートナーシップによるまちづくりの可能性の意見交換

コーディネーター：広原 盛明氏(コンペ運営委員会副委員長・龍谷大学教授)

コメンテーター：小合知佐子氏(地域審査員) 山本 尚順氏(購入意向審査員) 西村 孝平氏(開発事業者審査員) 高田 光雄氏(コンペ運営委員会運営委員・京大助教授)

林 史朗氏(設計提案者、最優秀賞受賞者) 上田 修氏(設計提案者、優秀賞受賞者) 大谷 孝彦氏(設計提案者、優秀賞受賞者)

石本 幸良氏(設計提案者、優秀賞受賞者)

全体 総括：巽 和夫氏(コンペ運営委員会委員長・京大名誉教授)

## 「まちづくり専門家セミナー・サロン」

### ～まちづくり専門家の情報共有とネットワーク構築に向けて～

#### 「まちづくり専門家セミナー」「まちづくり専門家サロン」

センターでは、昨年度に引き続き、まちづくりの専門家を対象とした登録制( )の「まちづくり専門家セミナー」を6月から毎月開催しています。

平成13年度においても、京都のまちづくりを様々な角度から捉えることを目指し、各回多様なテーマに関する話題提供を受けて、全員参加による意見交換を展開しています。これまで「京都の近代史とまちづくり」「情報技術がまちづくりへ果たす役割」「地域商業とまちづくり」をテーマに開催しました。

今回登録しているメンバー約50名は職業も年齢も立場も様々ですが、各回のセミナーの意見交換では、それぞれの視点から質問、意見等が活発に出され、各回のテーマについてより立体的に、そしてまちづくりと密接に関連した視点から捉えた議論が活発に行われています。

一方、昨年度セミナー参加者から「セミナーで話される内容はいずれも興味深い、深めるには時間が足りない」という意見がありました。これを受けて、今年度はテーマを絞って、少人数で構成し、地域まちづくりに貢

献するアイデアを具体的に提示することを目指す「まちづくり専門家サロン」を設置する予定です。現在、開発事業、コミュニティ・ビジネス等に関するサロンの設置に向けて準備を進めています。

平成13年度まちづくり専門家セミナーの登録は終了しておりますので、ご了承下さい。

「まちづくり専門家セミナー」の詳細は、センターのホームページをご覧ください。  
<http://web.kyoto-inet.or.jp/org/kyoto-ws/sensemi.htm>



専門家セミナーの様子

### 「京都まちづくり交流博」

#### パートナーシップのまちづくりの見本市を開催!

#### 「京都まちづくり交流博」のご案内

「パートナーシップによるまちづくりって、具体的にどんなものだろう?」「パートナーシップで取り組むと、何かメリットがあるのかな?」…。このような疑問をお持ちの方はたくさんいらっしゃるのではないでしょうか。「住民、企業、行政が、まちの将来ビジョンを共有し、それぞれの役割分担の下にまちづく

りを進める」と言葉で言うことは簡単ですが、なかなか具体的にイメージしにくいことだと思われます。

そこで、センターは今年度、このような疑問に応え、パートナーシップによるまちづくりの契機となることを目指す、「京都まちづくり交流博」を平成14年2月中旬に開催する予定です。

ここは、まちづくりに取り組む、あるいは取り組みたいと考える様々な主体が一堂に集い、それぞれの取組やアイデアを発信し、新しいパートナーと巡り合えることを目指します。

パートナーシップのまちづくりにはずべてにあてはまる定まった形はありません。

当センターでは「京都まちづくり交流博」を通じて皆さんの取り組みやアイデアが交流され、新しいパートナーシップが生まれることを期待しています。

是非、ご参加ください。

お問い合わせ  
 京都まちづくり交流博  
 (財)京都市景観・まちづくりセンター内  
 イベントの詳細は、センターのホームページでも随時ご案内いたします。

### 平成13年度賛助会員 (平成13年8月末現在、五十音順。)

#### [個人]

秋山 智則	岩本 文夫	岡本 晋	川口 東嶺	杉山 義三	寺田 敏紀	西川 壽麿	長谷川輝夫	松田 彰
粟津 六男	上田 修三	奥 美里	川越 柊子	鈴木 茂雄	寺田 史子	西嶋 直和	服部 俊幸	松村 光洋
石田 達	植村 博之	奥山 脩二	川島 三郎	炭崎 勉	寺本 健三	西田 祐司	林 建志	馬屋原 宏
井手 正己	宇 <sub>a</sub> 史昭	尾関 亘	北里 敏明	高木 勝英	栃木市立栃木西中学校 <sup>3年</sup>	西村 隆	人見 米一	南 寛
糸井 恒夫	大森 憲	小山 選一	木村 茂和	高木 伸人	中川 慶子	野嶋 久暉	福本 眞俊	山口 翔
稲石 勝之	大森 實	糟谷 範子	木村 寿夫	武居 桂	成田 和嗣	野原 康	藤本 春治	山本 一宏
稲波 良幸	岡崎 篤行	桂 豊	黒木 省二	田中 治次	西 晴行	橋本 清勇	平家 直美	山本 七重
稲本 浩一	岡崎 和夫	桂川 洋平	佐竹 和男	田村 佳英	西川 隆善	蓮田 攻	星川 茂一	吉田真由美
犬伏 真	岡村 虎夫	上林 研二	杉浦 伸一	寺田 恵子	西川久壽男	長谷川忠夫	正木 敦士	淀野 実

#### [団体]

アジア航測株式会社京都支店	株式会社オーセンティック	株式会社地域計画建築研究所	都市居住推進研究会
大阪ガス株式会社	株式会社大林組京都営業所	関西電力株式会社京都支店	西日本電信電話株式会社京都支店
大阪ガス株式会社京滋事業本部	株式会社京都科学	京セラ株式会社	花豊造園株式会社
オムロン株式会社	株式会社京都放送	京都駅ビル開発株式会社	松下電器産業株式会社公共システム
要建設株式会社	株式会社三和総合研究所	京都リサーチパーク株式会社	営業本部関西支店京都営業所
	株式会社ジェイアール西日本伊勢丹	清水建設株式会社京都営業所	ローム株式会社

## 『まちづくり交流』

# 社団法人京都府建築士会 - まちづくり委員会 -

京都府建築士会は、建築士やこれから建築士になろうとする人たちによって構成され、住宅の安全性の確保や、まちを暮らしやすくするために活動している団体です。

今回は、そうした活動の中から、地域や今後のまちづくりの担い手を支援する「まちづくり委員会」の活動をご紹介します。

## 「まちづくり委員会」設立のきっかけ

建築士は、建物の設計や工事監理を行うのが主な仕事ですが、直接市民と接するのは限られた機会であり、社会的な認知度はあまり高いとはいえません。京都府建築士会の中には、様々な部会や委員会がありますが、会員向けの活動をしているところが多く、もっと社会参加をして開かれた存在になっていきたいという思いを持つ会員もいました。

平安建都1200年を記念して取り組まれた京都府建築士会の事業のひとつに、三條通を歩行者の視点から見直すという取組がありました。京都府建築士会からの呼びかけで、三條通の地域の人たちと一緒にこの通りのあり方を考える中で、地域に「京の三條まちづくり協議会」ができました。この協議会を支えていくことを大きな柱とする専門家集団として、平成7年に、京都府建築士会の中に「まちづくり委員会」が設立されました。

## 「まちづくり委員会」の支援活動

平成13年には、「京の三條まちづくり協議会」やそれを支える「まちづくり委員会」の活動の成果もあり、誰もが歩きやすいよう段差を無くしたり、色調に配慮した歩車共存道路が完成しました。この取組を通じて、それまであまり交流されていなかった三條通に面する地域住民同士の交流が広がり、「京の三條まちづくり協議会」は自分たちで活動を担える団体として成長しました。

現在「まちづくり委員会」では、高校の家庭科の住居の授業を支援することを中心に活動しています。これまでの家庭科の授業では、被服や食物など衣食の分野が中心で、自分たちの住

宅や住んでいるまちのことを学ぶ機会には十分ではありませんでした。家庭科の授業の時間そのものが減っている中では、少ない時間でも生活の全般にわたる勉強ができるようにする必要があります。教えている先生自身、栄養学と被服学を学んできた人がほとんどであるため、専門以外の住居学についても、教科書に書いてあることだけでなく自分の言葉で生徒に話したいという思いから、京都府建築士会へ相談がもちかけられました。

## 高校の家庭科の授業の支援

家庭科の授業への支援活動は、高校生を対象に「まちづくり委員会」のメンバーが直接授業を行う出前事業と、先生を対象にしたセミナーという2本柱で、平成11年から取り組んでいます。

高校生への出前事業の1年目は、「まち探検」に取り組みました。学校周辺のまちを歩いて地域の魅力を発見し、それを地図に表現しました。2年目には、使い手としての立場から、理想の学校を考えるワークショップに取り組みました。3年目には、最寄駅から学校までの道のりを車イスで通い、気づいたことを発表しあいました。これらの取組を通して、生徒たちは身近な問題からまちづくりを捉えることができました。

先生を対象としたセミナーでは、「まちづくり委員会」のメンバーが講師となって、様々な地域で行われているまちづくりの事例や、コーポラティブ住宅などの住まい方を紹介しました。また、三條通を車イスに乗っ



理想の学校  
を考えるワ  
ークショップ  
の様子



高校生への出前事業の様子

たり、アイマスク等をして歩くという体験学習を行いました。最初は受身的に話を聞いていた先生も、最近では、自分たちで授業の組み立てができるようになりたいと、企画の段階から参加するようになりました。



三條通での  
車イス体験  
学習の様子

## 今後の展望

「まちづくり委員会」の副委員長である山本さんは、「家庭科のような授業は、先生だけで完結するのではなく、地域や建築士会などのいろいろな人が関わりながらサポートしていける体制が必要となるでしょう」と話されます。現在、高校生への出前事業は、家庭科の特別授業として取り組まれています。「今後は、特別授業としてではなく、通常の授業の一環として取り組んでいけたら」と、今後の展開に期待を膨らませておられます。

地域の方や、今後のまちづくりの担い手を育てる支援に力を発揮している「まちづくり委員会」。パートナーシップのまちづくりを進める上で、まちづくりに関する地域の活動を積極的に支援する専門家の存在に大きな期待が寄せられます。

### お問い合わせ先

〒604-0944

京都市中京区押小路通柳馬場東入  
橋町641 京都建設会館別館内

TEL : 075-211-2857

FAX : 075-255-6077

URL: <http://web.kyoto-inet.or.jp/org/ksarchi/index.html>

E-MAIL: [ksarchi@mbox.kyoto-inet.or.jp](mailto:ksarchi@mbox.kyoto-inet.or.jp)

まちづくり提案

# 「京都における自転車観光プラン」の提案

今回は、京都におけるエコツーリズムのモデルプランのひとつとして、宿泊施設におけるレンタサイクルの仕組みと、市内の自転車観光マップを使った新しい京都観光の提案についての取り組みを紹介します。



京都自転車ルートマップ(左京区主要部)

## 京都と自転車

「京都は自転車にぴったりのサイズのまちのはずなのに、どうしても利用しにくい点がある」。学生時代から、自転車中心の生活を送っていた佐藤さんは、こうした問題の解決のため、以前から抱いていた想いを「京都における自転車観光プラン」としてまとめあげました。そして、所属する「京のアジェンダ21フォーラム( )」2000年度パイロット事業に応募し、見事採択されました。

このプランは、京都を訪れる観光客が自転車を利用しやすい仕組みをつくと同時に、駐輪情報等の情報提供をはじめ、環境と健康を考えた自転車観光のための情報を掲載したマップを作成し、レンタサイクル利用者へ配布するというものです。観光客だけにとどまらず、京都市民も含め、自転車で京都を楽しむ人を増やしていくことにより、徐々に自転車利用しやすい環境が整備されることを目指しています。これは同時に、環境への負荷の少ない自転車利用を促進することで、地球環境にやさしいまちづくりを推進する効果も期待されます。



マップ作りの様子

## 自転車ルートマップの作成

その第1歩として、佐藤さんは京都観光を切り口にした「京都自転車ルートマップ(左京区主要部)」を作成しました。「左京区を選んだのは、有名社寺や文化施設が多く、鴨川など比較的自転車で走りやすい道があることが理由ですが、私を含め、マップ作りに参加したメンバーに左京区在住が多く、情報を収集しやすかったことも理由の一つです」と佐藤さん。

マップ作りでは、京のアジェンダ21フォーラムの「自転車タスクチーム」の仲間を中心に、実際に自転車に乗ってまちを走り情報を集めました。社寺仏閣や桜、もみじといった観光名所だけでなく、駐輪場、レンタサイクル店、故障時に修理可能な自転車屋さんなどが掲載されています。



細い路地も自転車ならこのとおり

また、4つの「おすすめコース」には、安全のため走行時に特に注意したい箇所や、万が一に備えて救急病院の連絡先までもが書かれているなど、自転車でまちを走る際に必要な情報が分かりやすく書かれています。走り疲れた時は、おすすめの自然派レストラン、カフェで一休み。

「マップ作りを通じて、自分が住むまちをじっくりと見ることができました。今まで知らなかったものや知らなかった道などを見つけられました。そして何より、関わったみんな

から様々な違った立場からの意見を聞いたことにより、まちの良いところ、悪いところ、改善すべきところなどが見えてきました。

今後、他地区のマップ作りを行う際にも、そこに住む人がたくさん集まり、一緒にまちを見て話し合うことができれば、より良いまちづくりにつながるのではないのでしょうか」と、佐藤さんは自転車の利用という視点から見た住みやすいまちづくりをも展望されています。

## 今後の抱負

「観光客が自転車を利用するには、宿泊施設で自転車を借りるのが一番便利だと思います。既に近くのレンタサイクル店と提携し、宿泊客が自転車を利用しやすい環境を整えている宿泊施設や、乗りたい場所から自転車を借りることができるように自転車を配達してくれるというレンタサイクル店も現れています。今後、こうした利用しやすいレンタサイクルの仕組みだけでなく、違法駐輪をなくすため新たな駐輪場の整備などにも取り組みたい」と、佐藤さんの夢はますます広がっています。

### 京のアジェンダ21フォーラム

京都市の環境行動計画「京のアジェンダ21」を市民・事業者・行政のパートナーシップにより実行するため創設された任意団体。

「京都自転車ルートマップ 左京区主要部」(1部100円)は、次の方法で入手できます。

下記へ直接取りに行くか、90円切手を貼付した返信用封筒に住所・氏名を明記のうえ、100円切手を同封して下記までお送りください。(11月以降、会議室移転のため、京のアジェンダ21フォーラム事務局(京都市環境局地球環境政策課内、TEL075-222-4037、FAX075-222-4039)までお問い合わせください。)

### 京のアジェンダ21フォーラム会議室

〒604-0091  
京都市中京区金座通丸太町上る梅屋町 元梅屋小学校2階  
TEL/FAX 075-254-1273  
URL <http://web.kyoto-inet.or.jp/org/ma21f/>

## ニュービジネスの動向

このコーナーは、新しく立ち上がった、もしくは企画段階にある新発想のビジネスの動向についてのインタビューによる紹介です。



### 百華事店株式会社

代表取締役社長  
北村陽次郎さん

#### どのような事業を されているのですか？

リーズナブルに宿泊できるホテル・旅館の手配、一見さんお断りのお店へのご紹介、各種の体験を手配するなど、「京都を良く知る、京の友」という存在で旅のお手伝いをする「京都倶楽部どっとこむ」という会員制倶楽部の運営をしています。

同時に、京都を知ってもらい、興味を持っていただく京都の入門編として、幅広い情報発信をする「e京都ねっと」というホームページを運営しています。ここでは、観光タクシーの運転手さんや地元の人やお店などの協力を得て、雑誌やテレビ等ではあまり紹介されていない穴場情報や口コミ情報などを毎日更新で紹介しています。



活動を紹介している冊子

基本的にこれらの事業はインターネットを利用して行っていますが、現在は、中高年層を中心として、インターネットを利用されていない方も少なくありません。そのため、「京

都倶楽部どっとこむ」で紹介しているお茶屋さんや、宿泊施設の情報を掲載した無料の小冊子を、平成12年11月に発行しました。将来的には、インターネット上で見てもらえる方が増えてくるだろうと考えていますが、現在はまず、こういった冊子等を利用して、当社の活動を知ってもらいたいと考えています。

#### 設立のきっかけは？

京都は、一度観光に来たことのある人でも、一定の年齢になるとまた訪れたい都市だと思います。その際には、有名な社寺仏閣を見てまわるだけでなく、もっと深く本格的な京都を楽しみたいという欲求が出てくるのではないのでしょうか。

これまでに、私の知り合いにも京都の楽しみ方を教えて欲しいという方がおられ、個人的に要望に応じた楽しみ方を紹介してきました。京都には、観光地としては知られていないけれども素晴らしい社寺や、日常の空間においても、伝統に育まれた文化を感じることでできる空間があちこちにあります。しかし、これらの情報源の社寺等は、独自に情報発信する術を持っているところはまだまだ多くなく、旅行代理店でもこういった細かい情報は紹介されていません。情報を求める人とその情報源との橋渡しが必要であると考え、平成12年4月に株式会社を設立しました。

#### この事業を通じてどんなことを 伝えたいと考えておられますか？

「一見さんお断り」のお茶屋さんがあるなど、敷居が高いというイメージが強い京都ですが、私達は、その敷居を低くしようとは思っていません。敷居の内側には、お客様を快くもてなしてくれるお茶屋のおかみさんがおられます。本当にその人に合ったおもてなしをするには、相手をよく知らなければな

りません。敷居があるからこそ、内側にいる人に対して本物のおもてなしができるのだと思っています。私達は、敷居をまたぐお手伝いをさせていただきたいと思っています。なぜそんなことをしているのか、という本質的なところを知って、京都を身近に感じていただきたいと思います。

「e京都ねっと」のコラム等でも紹介はしていますが、言葉で表現できることには限界があります。京都の懐に入っていて、実際に肌で感じてもらえたら、京都のおもてなしや思いやりの心がよくわかっていただけるのだと思います。

#### 今後の展望は？

現在は、残念ながら「京都倶楽部どっとこむ」の会員の方にお茶屋さんのお座敷まで行っていただくことはできず、ホームバーまでに止まっています。今後、「京都倶楽部どっとこむ」がもう少し実績を積んで、提携している店の方にとってより信頼される存在になった時には、会員の方にお座敷にも行ってもらえるような、より信頼性のあるゴールドカードのようなものもつくっていったら、と考えています。

#### e京都ねっと

<http://www.e-kyoto.net>

#### 京都倶楽部どっとこむ

<http://www.kyoto-club.com>

「e京都ねっと」のホームページ



# 私と京都



京都市景観・まちづくりセンター理事  
京都大学名誉教授 関西福祉大学教授  
三村 浩史

## 都市研究の原点として

京都に住んで半世紀近くになる。この都市の底知れ無い深さや人々を誘い込む同化力の偉大さにいよいよ感動している。なぜもっと早い時期から、京都のまちの暮らしに馴染み、その研究に全力投入して、京都人として自他とも認知されるように努力しなかったのだろうか、悔やまれるが、もともと無理と諦めていた節もある。三世代以上も住んで地元に貢献しなければ京都人になれないと聞かされてきた。都市研究では、お東さんと祇園と西陣は判ろうとしない方がよいと忠告された。

私から貢献することは少ないのに、京都からは多くのことを享受させていただいている。なんといっても山紫水明の美である。ことに鴨川に架かる橋からの風景は渡るたびに感動する。また、多彩な店舗がある。食材、料理、道具、古書、ものづくり職人などの店が思わぬところに発見できる。探せばたいていの物は入手できる町というのは心強い。さらに季節のリズムがある。単なる自然の推移ではなくて、故事由来や年中行事などで定型化された時間を共有できるのも嬉しい、等々。しかし、うっとり楽しんでられない面もある。

たとえ半人前であっても「京都の人」という看板に甘えられる。旅先で「京都からきました」といって歓迎されるのはわるくないが、「京都に関する研究です」という売出しには問題がある。京都の大学に本拠をすえて都市研究をしていると、いきおい京都を研究テーマにすることが多くなる。そして学会で発表する。「京の景観」「京の町家」「西陣のコミュニティ」の何とかに関する研究などと表題をつける。日本を代表する歴史都市、誰もが憧れ知りたがる京都、だから京都について研究することは無条件に価値があるのだと錯覚し、甘えてこなかっただろうか。

「君の研究テーマではなぜ京都に学ぼうとするのか」「数多ある地域があるなかで京都を調査対象と選ぶ理由は何か」大学院生にはいつもこう設問してきた。観光ガイドブックのような京都への絶対的憧憬ではなくて、研究者としては、京都の美しさ、個性、伝統を継承する市民力の特質を、世界や全国の都市との比較やつながりの中で冷静に位置づけてかつ客観的に解き明かすことが常に求められると思う。

私にとっての京都は、耽溺と対峙との矛盾に満ちた都市である。

## 《センター解説アワー》

### ▶ コミュニティ・レストラン ◀

「コミュニティ・レストラン」は、地域に暮らす多様な人々の交流を主な目的にして、地域の人が運営を担い、食事や喫茶等を楽しむ場を提供するものです。その運営方法や形態は様々であり、運営場所も、コミュニティセンター内や空き店舗等の地域の空スペースが使われることが多くあります。また、開設されている日も、月に1、2回のものから、ほとんど毎日開かれている場合もあります。

阪神淡路大震災後に神戸において広まった「ふれあい喫茶」



や「福祉喫茶」等も、その例としてあげられます。

コミュニティ・レストランには、大きくは次のような役割が期待できるといわれています。

- 1 孤立しがちな高齢者や女性、子供、障害のある人などの、自然体での交流の促進。
- 2 仕事につきにくい高齢者や女性、障害のある人などの人々が、地域の人と協働して働くことのできる場の提供。
- 3 一人暮らしで介護が必要な人や寝たきりの人に食事を提供するホームヘルプや会食サービスなど福祉活動の拠点としての機能。
- 4 食材調達、会計、人員配置などの実務を通じて、活動団体を設立することやその自立のための組織の運営方法等の習得。

様々な可能性を秘めたコミュニティ・レストランは、地域のまちづくりに大きな役割を発揮することが期待できるようです。

# センター語録

平成9年10月の設立から約4年の間、様々な活動を行なっている本センターですが、「景観・まちづくりセンターは何をすることで？」と聞かれることがあります。

この質問を聞く時、ちょっとがっかりしつつも、本センターが、もっともっと認知されるようにならなければ、と思います。

さて、本センターは、平成15年春に菊浜小学校跡地(下京区)に建設される複合施設内に活動拠点が移る予定です。

これを契機に、今、本センターが設立された意義、目的を改めて十分に認識するための議論や、市民、企業、行政をはじめとする、多くの方々との関わりの中で取り組んできたこれまでの活動の成果や課題を、整理、点検しています。

そして、少しでも実りの多い活動ができるよう、これからの事業のあ

り方や展開を、ロマンティズムも含めて、真剣に議論を重ねている最中です。是非、皆様からの御意見、御要望もたくさんお寄せいただきたいと思います。

最後になりましたが、前述の質問には、「この京都を、自信と誇りを持って後世に引き継いでいくために、公益法人として中立的な立場で、活動をするところです。」そして「パートナーシップ型まちづくりを一層進めることを目指し、地域コミュニティが抱える問題を解決するための人づくり、組織づくりや、町家、袋路など京都固有のまちづくり資源の保全・活用・再生を図るために、様々な事業を展開しているところです。」と、私は、お答えしています。

(景観・まちづくりセンター事務局 K・M)

## 京まちコーポ by no.1



## センターからのお知らせ

### 賛助会員の募集 (平成13年度分)

京都のまちづくりに貢献したい！  
センターの活動を応援したい！  
そんなあなたの熱意をお待ちしています。

#### [特典]

- ・ニュースレター(年4回・季刊)の送付
- ・ニュースレターでの活動紹介
- ・シンポジウム、セミナー等への優待

#### [年会費]

個人1口：5千円 団体1口：5万円

### まちづくりフレンズの募集

地域のまちづくりに関する各種イベントや啓発・学習活動にボランティア・スタッフとして参加していただける方を募集・登録しています。

### 京まち工房 ホームページ

<http://web.kyoto-inet.or.jp/org/kyoto-ws/>

センターの取組内容をはじめ、まちづくりに関する様々な情報を発信するホームページ。皆さんからのまちづくり情報もお待ちしています。



### (財)京都市景観・まちづくりセンター

#### “京まち工房”案内

〒604-0846 京都市中京区両替町通押小路下る金吹町452(元京都市立龍池小学校内1階南側)

TEL 075-212-4031  
(支援・参加・人づくり)

FAX 075-212-4047

e-mail : kyoto-ws@mbox.kyoto-inet.or.jp

#### 相談の受付等

月～金(祝日を除く)の9:00～17:00  
来所される場合はなるべく事前にお電話ください。  
なお、駐車場はありませんので地下鉄等をご利用ください。

